

こ　こ　だ　け　の　話

「オーイ、何処へ行くの」「オー、ちょっと友達のところ」性は内緒 名は話（通称 ナイショバナシ）君が笑顔で手を振りながら出掛けて行った。

「君にだけ話すんだよ」「あなただけよ」「ここだけの話しよ」「内緒にしてね」など、よく耳にする言葉であるが、なかなかそうはいかない。

結構、輪は広がっている。それもその筈である、話した人も聞いた人もまた同じようなことを言って、他の人に話している。

全てではないが、兎角「内緒 話」君て奴は、独り歩きする癖がある。

一度歩きだすと休むことを知らない。やたらと歩き回り遠慮なぞしない。素直に歩くならしようがないし、やむを得ないってこともある。でも、寄り道をしながら行く先々で「内緒 話」君は少しずつ変わっていくことが多い。

喜怒哀楽どんな話しでも勿論ストレートに、伝わることもあるが面白おかしく曲解され、時には意図的に歪曲され、しかも、根も葉もない尾鰭がつき歩き回り、何時の間にかたくさんの荷を背負わされ歩くようになる。

「内緒 話」君が戻って来た時には、ボロボロになって出掛けた頃のあの真面目なハツラツとした姿なぞ微塵もない。笑顔もまったく消えてしまっている。

「どうしてこうなったんだ」と、訳を聞いても本人はさっぱり分からず啞然としているだけである、狐につままれたように。世の中とは面白いものである。

日常こういうことは比較的多いのかも知れない。何故だろう？

多種多様な人間が、この地球上に存在することは事実だけれども「内緒 話」君そのものを好意的に受け止める人、悪意に満ちて対応する人、冷静に判断する人、野次馬的根性で接する人など、いろいろな人間がいる。

環境・生活・教養・年齢・価値観・その他いろいろな要因が考えられる。

次々と変わっていった「内緒 話」君の真実の姿が元に戻るには、大変な努力と日数が必要である。達成できるかも疑問になってくる。

そのために迷惑を受けるのは、あるいは信用を失うのは誰なんだろう。

言わずと知れた「内緒 話」君そのものだ。

場合によっては、重大な問題へと発展して行く可能性も充分考えられる。

この種のことは、冷静沈着に対処すべきことを肝に銘じるべきだと思う。

ある時、AさんがBさんに、それ程問題にすることではない話をしたことが、何処でどう間違ったのか、何人かの人に伝わった際誤解が生じ、大きな問題になっていった事実を知ったので、少し考え記してみました。